

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 多治見工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月19日(金) 13:30~16:30
- 3 開催場所 バロー文化ホール リハーサル室
開催にあたり、委員による課題研究発表会の見学を実施した
- 4 参加者
会長 加藤 賀裕 多治見市青年会議所理事長 (欠席)
副会長 加藤 隆浩 前育友会会長
委員 山本 博子 Mama's Café 理事長
水野 靖子 育友会副会長
加藤 亨 明和工業株式会社 管理部部長
山本 和彦 本校同窓会 役員 (欠席)
齋藤 哲弥 地域代表 (欠席)
村松 敦子 養正公民館 館長

学校側

中田 卓生	校長
田口 稔	教頭
永瀬 雅彦	事務長
青山 知喜	教務主任
加藤 龍輔	生徒指導主事
加藤 嘉憲	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本年度の取組について

- ①教務部
- ②生徒指導部
- ③進路指導部
- ④工業部

(2) 学校自己評価について

(3) 課題研究発表会について

意見1:工業のレベルの高さに驚かされた。研究内容も企業が行っているレベルであった。生徒自身が考えて作っていくプロセスを先生方がしっかりと支援していると見て取れた。

- 意見2：生徒自身が課題を見つけ失敗して解決してきた結果の発表であった。この3年間で物事を考え組立てる力が身に付き生徒が成長したことが伝わった。
- 意見3：どの科も自分が行ってきたことに自信を持っており、非常にすばらしい発表であった。また、緊張する雰囲気の中で発表する経験は大変大事なことだ。

(5) 学校PRについて

- 意見1：本校は安心できる環境なので多くの生徒が集まってほしい。そのためのアピールを考えていくべきである。保護者の立場から考え、本校を卒業してどのような働き方につながるのかを中学生にわかりやすく説明ができるとよい。
- 意見2：本校は学ぶ目的が明確であることを伝え、中学生や保護者に何を指すかを明らかにした上で学校の選びが大切であることを、本校からも発信するとよい。
- 意見3：卒業後の会社名や職種を提示するのではなく、どんな仕事をしているのか等、仕事内容がわかる冊子等を作成し配布するとよい。
- 意見4：本校と普通高校との違いをアピールすることが大切である。実習、資格取得の内容が将来の仕事にどのように繋がるかを、中学生3年生ではなく1年生に向けて冊子等を配布するとよい。
- 意見5：学校見学において施設管理や教師と生徒の関係など中学生はよく観察している。見学会のために学校がどのように対応しているかは大切であり、それが普通の学校の姿勢であることを敏感に感じている。学校PRに対する学校の姿勢を大切にするとよい。
- 意見6：多くの中学生が本校を選ぶには、課外授業的な学びを地域の人たちに広く伝えるとよい。

(6) 本校への提言について

- 意見1：工業の技術が製造業以外でも活かせる仕事は多くある。例えば保育士ではデザイン科の表現する技術が使える。また公務員にも工業技術が必要な専門職がある。生徒には様々な仕事があることを示し選択肢を増やしてほしい。
- 意見2：知識だけではなく身に付けた力を活かすことで自信になり生徒の成長に繋がるため、体験や実践が積める課外授業的な活動を多くしてほしい。
- 意見4：本校の卒業生はものづくり技術を活用して他人のために活躍している。様々なところで技術を活用し活躍できるので自信をもって社会に出て行ってほしい。
- 意見5：能登半島の地震に伴い災害等の安全対策はどのように考えているのか。
⇒転倒防止、ガラス飛散の対策ができているかを再点検している。不足の部分は予算立てし整備していきたい。また、「命を守る訓練」等を通し防災教育をより充実させていきたい。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、会議前に課題研究発表会を見学し、主体的に課題を解決していく生徒の成長に関する感想を多く得られた。また、学校の取組みや学校自己評価の説明を行い、委員から理解が得られた。さらに、卒業生が「ものづくり技術」を活かしたボランティアで地域に貢献している報告があった。会議では学校PRについて多くの意見が出され、普段の学校の姿勢が学校PRにも影響することに気づかされた。今後も地域と連携しながら学校を運営していく。